



國
抽



特別
子 12
3643
6(2)



國栖

思^多を^一に^一色^一雲^一井^一を^一如^一る^一春^一は^一夜^一乃^一月^一
 此^レ都^一乃^一名^一残^一り^一礼^一道^一く^一き^一ら^一る^一
 位^一山^一登^一る^一は^一女^一也^一唯^一頼^一免^一神^一風^一や^一
 い^一す^一は^一好^一る^一起^一を^一交^一る^一御^一裳^一濯^一川^一の^一
 御^一流^一を^一屋^一中^一か^一起^一御^一方^一お^一て^一お^一た^一る^一海^一の^一
 立^一荒^一汝^一君^一や^一申^一に^一由^一懐^一と^一く^一天^一津^一日^一以^一起^一



故
 梅若誠太郎氏
 昭和五年五月廿日
 梅若重戸氏
 寄贈
 朝書園

初月 釣俵をゆき返してやうな筆を

「奉と名知道菜はあつきの鯨魚とも

甲斐そなき。葉は船のゆきま。命の恩を報せん

名 ち程にふけ静まるとあふく。こころは

天のちのち。胎藏地を又こころ

東西南北なる

ねをわけよ。ちのち

必く青い喜ぶ一あはれ
神切里辰

を交^ニ履^ニ起^レ可^ク不^レ由^ル伯^ノ父^ノ何^レ某^ガ志^ニ連^ル小^ノ木^ノ
そ^レれ^ハ給^ハひ^テ都^ノ乃^ハ塚^ヲを^テ遠^ク田^ノ舎^ヲ乃^ハ列^ス
ぬ^ハ山^ノ野^ノ此^ノ草^ヲ木^ヲ乃^ハ霜^ヲ分^テ行^ク道^ヲ乃^ハち^テ
送^リ也^ハ行^ク事^ヲを^テ思^フへ^テや^ハ頼^ムも^ハや^ハウ^チ才^ヲ
あ^ハ兒^ノ山^ノや^ハ世^ノ此^ノ中^ノ乃^ハ宇^ノ多^ク志^ニ御^ノ持^ル場^ノ
御^ノ可^ク小^ノ兄^ノと^シウ^チ男^ノ廣^ク非^レ成^ル去^リ日^ノ山^ノづく^ニ
三^ノ豈^トも^テ増^ス春^ノ雨^ハ此^ノ音^ヲを^テい^ハ川^ノを^テ茅^ヲ

野^ノ川^ノ野^ノや^ハ志^ニ社^ノ苑^ノを^テり^ナれ^ニ
去^レれ^ハ夜^ノ乃^ハ月^ノ々^ハ雲^ノ井^ノ小^ノ鳩^ノを^テ下^ノ輕^クを^テ
お^ハけ^テよ^ク玉^ヲれ^ハ藥^ヲく^ニ御^ノ急^ク祖^ノ不^レ
づ^ク共^ニ知^ルぬ^ハ此^ノ中^ノ小^ノ御^ノ着^ル少^クは^テ先^ニ
此^ノ可^ク小^ノ御^ノ所^ノ成^ルな^ハは^テま^シ子^ノす^レ親^ノ少^クは^テ依^ル
祖^ノ母^ノや^ハん^ハ終^ルへ^テ何^レ事^ヲ少^クは^テ何^レ此^ノ
祖^ノ父^ノ乃^ハ母^ノ舞^ル屋^ノ此^ノ上^ノ小^ノ塔^ノ雲^ノ乃^ハを^テ終^ルひ^ニ

是々々色何や申たる。御事少くも
是はよ〜あは御方少くも御座はる間迄
人とおそれ給ひ。是迄御思ひより候
何事も御成頼み思召候との申すは
極々よ〜有御方少くも御座はる事。是ハ
北府が庵少くも御座はる事。是ハ
有すれ少くも御座はる事。是ハ
御事少くも御座はる事。是ハ

申事少くも御座はる事。是ハ
近江を給はる候。何れも御事少くも
其由祖母に申す。是ハ御事少くも
何れも御事少くも御座はる事。是ハ
給はる候。何れも御事少くも御座はる事。
是ハ御事少くも御座はる事。是ハ
是ハ御事少くも御座はる事。是ハ
是ハ御事少くも御座はる事。是ハ

魚乃依。是頃。借所。不傳。入。中。所。不。成。る。事。
 祖。母。と。似。り。此。菜。も。あ。ら。ず。小。胸。お。さ。ま。に。
 摘。む。に。根。芥。洗。ひ。と。考。う。身。も。あ。ら。ず。
 け。ら。菜。を。揃。へ。け。借。所。不。傳。入。也。其。ま。よ。り。
 志。と。ぞ。云。ふ。一。形。の。菜。摘。む。川。と。や。あり。
 祖。又。も。色。濃。に。紅。菜。拔。根。同。小。き。に。お。極。
 川。少。く。釣。た。る。鮎。代。り。同。敷。借。所。不。傳。免。

上。青。野。此。葛。と。い。ふ。事。を。此。時。よ。り。の。事。
 少。か。や。道。菜。の。あ。り。ま。の。鮎。魚。と。い。ふ。是。
 ち。は。い。く。増。え。に。同。敷。と。考。う。考。へ。よ。く。
 ち。小。厨。借。所。の。以。終。り。を。厨。小。さ。ま。の。事。
 と。の。以。事。の。い。く。は。意。有。物。や。い。さ。う。と。考。
 折。返。し。て。給。を。ら。ふ。す。於。あ。ら。ず。也。
 う。ち。ぬ。い。と。給。を。ら。ふ。す。於。あ。ら。ず。也。

申た新事少く有と ^{ニテ} 折返し

給をらす新し ^{ニテ} 社國極魚の志

少く作く ^{ニテ} 祖母倍沖の残を厨

給をれとの事 ^{ニテ} 少くゆる氷魚ハいさ

い記く ^{ニテ} 見へる候 実け魚きい

海 ^{ニテ} い記くと ^{ニテ} 入ると ^{ニテ} け ^{ニテ} いさけよ ^{ニテ} 此

川 ^{ニテ} 少く ^{ニテ} あひ ^{ニテ} して ^{ニテ} ぬよ ^{ニテ} 筋 ^{ニテ} な ^{ニテ} 記 ^{ニテ} あ ^{ニテ} や ^{ニテ} 志

宣 ^{ニテ} の ^{ニテ} そ ^{ニテ} ぞ ^{ニテ} あ ^{ニテ} ひ ^{ニテ} き ^{ニテ} れ ^{ニテ} ぎ ^{ニテ} や ^{ニテ} 生 ^{ニテ} け ^{ニテ} なる

存 ^{ニテ} 記 ^{ニテ} する ^{ニテ} 候 ^{ニテ} 神 ^{ニテ} 功 ^{ニテ} 皇 ^{ニテ} 后 ^{ニテ} 新 ^{ニテ} 羅 ^{ニテ}

を ^{ニテ} 随 ^{ニテ} へ ^{ニテ} 給 ^{ニテ} ひ ^{ニテ} 一 ^{ニテ} 志 ^{ニテ} あり ^{ニテ} 玉 ^{ニテ} 鴻 ^{ニテ} 川 ^{ニテ} の ^{ニテ} 鮎

破 ^{ニテ} 釣 ^{ニテ} も ^{ニテ} 給 ^{ニテ} ま ^{ニテ} する ^{ニテ} 其 ^{ニテ} 志 ^{ニテ} あり ^{ニテ} 氷 ^{ニテ} 君 ^{ニテ} も ^{ニテ} 二 ^{ニテ} 度

都 ^{ニテ} に ^{ニテ} 還 ^{ニテ} 幸 ^{ニテ} なる ^{ニテ} 氷 ^{ニテ} 魚 ^{ニテ} を ^{ニテ} あ ^{ニテ} せ ^{ニテ} り ^{ニテ} 記

い ^{ニテ} ん ^{ニテ} と ^{ニテ} 山 ^{ニテ} 崎 ^{ニテ} 氷 ^{ニテ} 水 ^{ニテ} 少 ^{ニテ} ず ^{ニテ} あ ^{ニテ} せ ^{ニテ} る ^{ニテ} 候

ざ ^{ニテ} し ^{ニテ} 色 ^{ニテ} とも ^{ニテ} 瀬 ^{ニテ} 川 ^{ニテ} 少 ^{ニテ} 志 ^{ニテ} あり

野の吉瑞を、あゝを以魚のおのほろ
生くる此おの頼もしく思ふなれよ
めう小厨遊軒うかつて依 此方之御
何せゆくいとに祖母あ乃船うのく来う
心得中ゆ何清見さしく清んをく
なうばは 比川へゆけ
ゆけ 儲と清見原
さけ人の名よあゝあゝ園あれはま人の

名や其上此山に都率れ内院あきたとく
又五臺山青凉山とく、唐去遠を遠く續
まぬ吉野山隠れ家宛記所成城いづく
途尋終るる手に速お返へる路へ何と船う何
中ひともは是ら于の船とよ何と船と
はがそよとや捕師れ身ふとくハ船をゆり
されきしを家をはかききききき同

野々吉瑞を、あゝを、魚のおのほろ
 生くる、此おの、頼も、思ふ、なれよ
 早稲 ぬふ小尉、遊年、うかつ、そ、依、此方、人、御
 何せ、い、い、ら、に、祖、母、あ、ろ、船、う、ひ、と、来、う
 心得、中、い、い、何、清、見、さ、さ、く、人、清、見、さ、さ、く
 此の川、す、そ、い、ゆ、け、儲、ら、清、見、系
 さ、は、人、の、念、よ、あ、あ、同、あ、れ、は、ま、人、の

名、ま、ま、上、此、山、ら、都、率、れ、内、院、あ、ま、た、と、く
 又、五、臺、山、青、涼、山、と、く、唐、去、遠、を、遠、く、續
 老、於、吉、野、山、隠、れ、家、実、記、所、成、成、い、は、く
 送、尋、終、あ、る、手、に、速、お、返、へ、了、入、何、と、船、う、何
 中、い、い、と、ま、是、ら、于、の、船、と、ま、何、と、船、を
 何、が、ま、ま、と、ま、捕、師、れ、身、あ、く、八、船、を、何、う
 さ、れ、ま、ま、も、家、を、何、か、う、ま、ま、ま、ま、も、同、一

事ぞうく、才あき、賤教思ふとも、汝可
少くも、氣を、お困る、見者ぞうく、孫も有
彦も有ぶ、谷を、此者、出逢ひて、あの
狼籍人をお留候へく、ツレカ、ヒコ な子、同
良せ、追年、此、武士を、取り、き、今、ら
か、よ、や、祖、父、祖、母、の、姉、も、や、か、を、元、氣、
文、の、や、青 船、引、お、出、し、ソ、シ、ク、 乃、ク、 乃、ク、 乃、ク、
所、

悪なく、川、船、志、甲、斐、あ、れ、御、命、助、り
給、う、も、あ、り、か、き、地、 夫、君、の、船、長、ハ
水、の、能、ふ、日、城、海、お、と、付、沈、忠、き、入、乃
多、と、人、な、り、有、か、き、や、さ、も、 姿、を
山、賤、乃、お、ら、高、 紀、も、あ、り、あ、や、安、 志、を
賤、あ、ら、寄、ら、う、積、 乃、餘、
慶、限、り、な、く、流、き、き、え、と、ぬ、裳、 濯

川濁れる世少々澄輪子方上内れ
君や〜と社民秋をあらむあ〜成に
ぐ〜と〜き〜る志〜青ハ宿若の
甲斐どな〜一葉此船乃ゆす急
らん〜乃雲井ほおふあや〜き
け〜免や都路ふ立帰〜阿比
津例忠よ〜や世の半流〜念の

恩強報せんや。倫言所不免の
以美夫婦乃老人が〜を形さ
な〜后きり〜去ほ〜ふ〜静まり
ておすお〜い〜や〜ら〜流ほ
御あ〜路〜免〜の〜静〜可
月雪れ〜野なれや花鳥乃交
音ふより〜音樂れ呂律乃志〜絶



一
三

